

◇ 前 田 弘 幹 君

○議長（小西秀延君） 続いて、6番、前田弘幹議員、登壇をお願いします。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 6番、会派ひかり、前田弘幹です。通告に従いまして、一般質問させていただきます。

1. 地域活性化事業について。

（1）、空き店舗等活用・創業支援事業について。

①、これまでの経過と実績について。

②、募集要領の見直しや改正の考えについて。

③、助成を受けた物件での営業年数や物品の取扱等、助成後の制約について。

④、今年度から宿泊業を対象から除外した理由。

⑤、助成金交付要綱に「助成金を交付することが社会通念上不適切と判断される事業（法律に定める風俗営業等）を除く」とあるが、助成対象外とする業種とその理由。

⑥、空き店舗に限らず、廃業予定の場所をそのまま事業承継し運営していく場合の補助制度の考え。

（2）、白老牛肉まつりについて。

①、5年ぶりに開催された牛肉まつりの成果と課題。

②、行政として次回以降の支援の考え。

③、開催前に町民から沢山の待望論があったと思うが、実際に開催した後の町民の声はどうか。

④、農畜産業稼ぐ力向上支援事業の地域おこし協力隊は、今回の牛肉まつりにどのように関わったのか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「地域活性化事業」についてのご質問であります。

1 項目めの「空き店舗等活用・創業支援事業」についてであります。

1 点目の「これまでの経過と実績」についてであります。平成27年度の助成事業開始から令和5年度までの9年間における活用実績は累計30件であり、累計の交付実績額は4,947万2,000円であります。

30件の内訳につきましては、飲食業12件、宿泊業10件、小売業4件、その他サービス業1件、店舗改修3件であり、飲食業12件のうち2件につきましては、従業員不足等の理由により、現在までに廃業済みであります。

2 点目の「募集要領の見直しや改正の考え」についてであります。助成金交付要綱や募集要領につきましては、本事業の各年度における活用実績だけでなく、経済情勢や需要動向などの要因を勘案し、必要に応じて内容を整理してまいりました。

今後につきましても、同様の考えの下で検討してまいります。

3 点目の「助成を受けた物件での営業年数や物品の取扱等、助成後の制約」についてであり

ますが、現行の規定におきましては、営業年数の制約はないものの、事業完了後3年間は、集客人数、売上高等の追跡調査に協力をいただくものと定めております。

助成対象として取得した物品の取扱いにつきましては、助成金の交付目的に従って、その効率的運用を図らなければならないと規定しているほか、耐用年数を経過するまでは、取得した物品を他の用途に使用し、他の者に貸付け、もしくは譲渡などをしようとするときは、あらかじめ町長の承認を受けなければならないなどと定めております。

4点目の「今回から宿泊業を対象から除外した理由」についてであります。平成28年度から令和5年度までで、宿泊業で計10件の活用実績のうち、6件が簡易宿所であったことに加え、本事業を活用した簡易宿所の創業以外に、2年4月以降に21件もの簡易宿所が創業している状況も考慮し、町内における簡易宿所の数が飽和状態であると判断されることから、6年度より宿泊業を除外したものであります。

5点目の「助成対象外とする業種とその理由」についてであります。助成対象外とする業種につきましては、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律第2条に規定する「風俗営業等」の業種であり、公安委員会の許可が必要となる風俗営業及びナイトクラブなどの特定遊興飲食店営業に加え、公安委員会への届出が義務づけられている、性風俗関連特殊営業及びバーや酒場などの深夜酒類提供飲食店営業としております。

それらを助成対象外とする理由につきましては、観光振興に資するものか否かにかかわらず、公的な資金の交付先として、社会通念上、不適切であると判断しているためであります。

6点目の「空き店舗に限らず、廃業予定の場所をそのまま事業継承し運営していく場合の補助の考え」についてであります。本事業名は、「空き店舗“等”活用・創業支援事業」であり、活用実績のある物件は、単なる空き店舗だけでなく、事業承継の観点を含めた活用実績もございます。

事業承継につきましては、地域経済の活性化の観点だけでなく、経営者の高齢化による後継者問題を解決する観点からも重要なものであると捉えていることから、事業承継に該当する相談があった際には、本事業の活用だけでなく、北海道中小企業総合支援センターなどの関係団体とも連携し、適切な支援を実施してまいります。

2項目めの「白老牛肉まつり」についてであります。

1点目の「5年ぶりに開催された牛肉まつりの成果と課題」についてであります。会場を新たにポロトミンタラへと移し、5年ぶりの開催にもかかわらず、1万4,988人の方々にお越しいただき、白老牛のさらなる消費拡大や認知度の向上が図られたものと認識しております。

また、今後に向けては、来場者に対して実施した、アンケート調査の結果を踏まえ、より魅力ある牛肉まつりを開催できるよう、町としても支援を継続していきたいと考えております。

2点目の「行政として次回以降の支援の考え」についてであります。まちの中心部において開催された今回は、白老牛を主軸とした交流人口の増加や地域経済の活性化等、産業振興の面において大きな可能性を感じたところであります。町としましては、引き続き畜産農家の持続可能な経営体制を確立できるよう、生産者を主体に町内事業者との連携を促進し、幅広い可能性を探りながらチャレンジしていきたいと考えております。

3点目の「開催した後の町民の声」についてであります、会場周辺の町内会の方々からは、当初懸念していた交通渋滞や違法駐車もなく、まちじゅうににぎわいが生まれ、とてもよい祭りだったとのお声を多数いただいているところであります。

また、満足度に対する調査項目では、5年ぶりの開催を待ち望んでいたとのお声や、84%の方に満足との回答をいただいたことから、大変好評であったと認識しております。

4点目の「地域おこし協力隊のまつりへの関わり」についてであります、今回開催された牛肉まつりに対しては、協力隊の活動として札幌圏のレストランのシェフ等を招聘し、牛肉まつり会場において白老牛を食していただくなど、牛肉まつりを起点とした理解促進活動や、新たな商品開発などを進めたとの報告を受けたところであります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、昨日もちっと同僚議員から出ていましたけれども、空き店舗等活用支援事業についてです。町内外から新規で起業する方々には大変ありがたい支援事業だと考えておりますが、確認の意味も含め質問させていただきます。今の町長の答弁の中でもあった廃業事業者、これが既に2件ということによっておりましたけれども、このやめる理由について従業員不足などの理由によりと書いてございます。今いろんな業種で当然人がいないということも考えられますが、新規というか、創業支援事業を活用するに当たって、そもそもが少数でスタートする事業のように思っております。その中でもさらに従業員がいないからやめるという理由がこの町の制度に対して妥当なのか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 町長の答弁の中で2件廃業で1件は従業員等の確保ができなかったと、もう一件はコロナ禍にもあって物の仕入れもなかなか難しくなったといったような内容の理由と伺っております。我々が創業支援の相談を受けて、こういう計画でやりますといったときには当然、しっかりと長年継続してやられるという計画のもとに我々も、補助の決定をするわけですが、やっていく中にあってはそういった趣旨の、いろんな事情があってやめられる、当然本意ではないと思いますので、そういった部分については時代の流れといえますか、時代の状況というか、そこによるものも多いのかとは思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） その中で、特にやめた2件などの理由を毎年見直すであろう要領等の変更の際に参考にされているのかどうかを聞きたいと思います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 実際直近でやめられたところについては、実は白老町に在住の方ではなくて苫小牧市に在住の方が白老町で起業したいと、お店を出したいということでご相談を受けました。店長を雇ってやるというような内容だったのですが、その方がトラブルでいなくなってしまったといったようなことが大きな撤退の理由となっています。なので、そういったことも踏まえて現在は白老町に在住の方と、しっかりとご本人が経営していただけると

いった方を想定するように変更しております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それらについて、当然3番目の答えの中で出てありました営業年数の制約はないものというところではありますけれども、最大150万円の補助が出る事業に対して短期間でやめられた方についてのペナルティーというか、そういったものは何かあるか伺います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 直近でやめられた事業者につきましては、実際の営業期間については約半年といったところでございます。この事業者につきましては、店舗の改修費も含めて備品購入費も対象となっていて、閉店後の助成金の取扱いにつきましては、店舗が閉店し、備品を補助事業にのみ活用するといった、まず目的を喪失していると、それと備品の耐用年数についてはまだ残っている状態で、あとは営業期間が3年未満と、約半年ということで短いといったこともありまして、現在備品の部分、店舗改修の部分についてはなかなか返還というのが厳しいので、備品の部分につきましては現在補助金返還に向けた手続を行っているところであります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） お金の部分なのか物の部分なのかということはありませんけれども、今回に限らずですけれども、今後また同様の件がもしかあったとするならば、今後それらのお金はどのようなものとして、物品等の返品があったときはそれらをどうするのか、その考えを聞きたいと思います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 基本的には物を返してもらうというよりも、やはり金額、お金で補助金を返還してもらうというのが基本線になると考えております。この補助事業自体で備品については総事業費の20%以内とうたっているのですが、事業費が相当大きければ備品代も大きくなると思うのですが、100万円であれば20万円と、その補助率が3分の2なので、お金で返還できない金額ではないのではないかと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 続いて、④の宿泊業を除外したというところの質問ですけれども、昨日の答えの中でも全体で85件宿泊業がありますと、今回飽和状態にあるということで宿泊業を除外したとありますけれども、民泊を調べられない人が多いということもあるのでしょうかけれども、いろいろな方から白老町はなかなか泊まる場所がないよねという話をよく聞くのです。だけれども、業種として宿泊業が長い町内に85件もあって、それが多いというのは分かるのですけれども、実際のところ飽和状態と呼べるのかどうかということがあると思うのです。それをこの85件、本当のというか、リゾートホテル、温泉ホテル、旅館、民宿等々を踏まえて、そ

れでもやっぱり多いと思うのかどうかを再度聞きたいと思います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 昨日もお答えしたところでございますけれども、町全体としては飽和状態といいますか、民泊施設が増えているといったような状況にあるかと思います。昨日の西田議員のご質問の中にもあったとおり、この白老地区、特に大町、東町方向を含めた近隣についてはまだまだ不足している状況もあるかと思いますので、ここら辺につきましては今後要綱等を見直していきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、⑤の質問に移りたいと思います。

この事業の交付要綱の趣旨、第1条に魅力的な店舗の集積により来町する観光客の増加や回遊性の向上、リピーターの増加による地域経済の活性化を図るためとありますけれども、来町する観光客の中には当然インバウンドも含まれるかをまず確認したいと思います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 当然インバウンドも含めた意味であります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） インバウンドが含まれる、含まれないで結構変わると思うのですが、今インバウンドが含まれるということなので、インバウンドというものが含まれる場合、ここでいうところのいわゆる風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律、これの中には照明の暗いライブハウスもしくはディスコ等も風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律の対象になっているのです。これインバウンドの人がよく言うことで、このまちにはそういうものがないのだと。泊まる場所も若干ないのですけれども、夜に白老町を回遊したときに遊ぶところがないということをよく聞かれるのです。これについてはどう思いますか。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） インバウンドが急激に増加しているニセコの地域ですとか、そういったところではそういった需要もあると伺っておりますが、本町としましては観光客が白老町に来町される目的としては、まずウポポイや豊かな自然環境、食資源や温泉、こういったものだと思っております。こういった資源を生かして白老町を訪れた方が町内を周遊して、またリピーターとなって再度来訪していただけるような取組に対して支援していきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） お昼の観光だけではなくて、当然先ほども言ったような夜、これはウポポイに限らず、今だと千歳空港に海外からの飛行機が来て、そこの搭乗員というか、CAだとかパイロットだとかが結構苫小牧市にまで泊まるのです。泊まったときに苫小牧市だけで済むときと、やっぱりパイロットの人たちも少し観光のものがあって、せっかくだからちょっと

通える範囲のところで行こうということで数年前も結構白老町にも来ていたのです、そういう人たちが。そういう実績もあって、またこのまちには多くの外国人、いろんな国籍の方の外国人が住んでいると思います。この方々に白老町ってどうなのだろう、自分がこのまちに住んでみてどうなのだろう、外国の方の目線からこのまちの観光だとかというものを聞くことによっていろいろな気づきが受けるのだと思うのですけれども、これをまた事業に生かすということは考えられるかを聞きたいと思います。

○議長（小西秀延君） 三上経済振興課長。

○経済振興課長（三上裕志君） 議員のおっしゃられる夜のにぎわいといった部分かと思いますが、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律に係る部分につきましては、まず日中の集客があってこそその2次的なものと捉えております。先ほどの町長の答弁にもありましたとおり、公的な資金の交付先として社会通念上不適切と判断しているところであります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） これは飲食を含めた業界、観光に関わる業界でもありますけれども、やはりお昼の観光だけではなかなか、今はバスで来てドア・ツー・ドアで例えばウポポイに降りるだとかということになると缶ジュース1本買ってもらえないという状況があると思います。ぜひとも夜も含めてもうちょっと大きな範囲、ウポポイだけではなく、虎杖浜温泉だけではなくという目線で考えていただければと思います。

ここの最後になりますけれども、この事業、起業を目指している人たちにとって本当にありがたい支援事業だとは思っておりますが、しかし現在ある空き店舗、今までの白老町の商売から考えると多くのところがまず水回りがありません。例えば靴を売るとか何を売るという既製品を売る分には適しているのですけれども、本当に飲食と考えると全く水回りが足りない。路面店であってもガラス窓がついていて棚はついているけれども、水回りがほぼない。下手するとトイレもないということを鑑みると、金額の問題ではないですけれども、水回りのトイレ、水道設備、これを足すと簡単に100万円超えてしまうのです。今のところ空き店舗のところであればマックス150万円という金額もないというところから見るとすごくありがたいのですけれども、それだけで終わってしまう部分もちょうとあると思います。今のところ新築か空き店舗かという分けだと思うのですけれども、業種によってまた少しその中身を検討できないか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克巳君） これまでも空き店舗等活用・創業支援事業につきましては様々な対象だったり、また金額もその年、その年でニーズに合わせて見直しをしているという状況があります。議員のおっしゃられたように、水回りにお金もかかるとお聞きしましたがけれども、今後皆様こういうような支援事業を受けられる方がどのような希望を持って、またどのような業種でというようなところ、先ほどお話のありました夜のにぎわいということも今は風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律の関係で規制している状況でございますけれども、その辺につきましても今後支援事業の在り方も含めて何が一番適したものなのかというのは、

今後その辺につきましても見直しをしながらよりよい支援事業にしていきたいと考えてございます。

○議長（小西秀延君） それでは、ここで暫時休憩といたします。

休憩 午前 11 時 58 分

---

再開 午後 1 時 00 分

○議長（小西秀延君） それでは、休憩を閉じて一般質問を続行いたします。

6 番、前田弘幹議員。

〔6 番 前田弘幹君登壇〕

○6 番（前田弘幹君） それでは、2 番目の牛肉まつりについて質問させていただきます。

まず、牛肉まつりは今月初めの事業なので、全ての結果が出ていないということは理解しておりますけれども、分かっている範囲でのお答えをお願いしたいと思います。まず、5 年前、約 5 万人の来場者があって、今回は規模縮小を含めても約 1 万 5,000 人というこの人数は予想の範囲の中だったのか、来ているほうなのかをお聞きしたいと思います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ただいまの今回の 5 年ぶりの牛肉まつりの来場者数でございます。過去には 5 万人ということで、当時は 5 万人のときには 14 頭ほど白老牛を使わせていただきまして事業を行っておりました。今回どの辺にこの規模を、アッパーを設けるかということで、今回は約半分、7 頭にしまして、来場者数は 2 万人で見込んで当時レンタル品だとかテーブルだとか椅子、この辺を用意して設定しました。結果としまして、ちょっと初日が天候に恵まれなかったのですけれども、1 万 5,000 人ということでございますので、肉も完売したところを見れば大体想定内でいったと思っております。

○議長（小西秀延君） 6 番、前田弘幹議員。

〔6 番 前田弘幹君登壇〕

○6 番（前田弘幹君） この牛肉まつり、当日会場にとどまらず、結構いろんなところに駐車場も点在して、そのほかの商業施設等の波及効果が見えたと思うのですけれども、今聞こえている中で結構ですので、どのくらいの波及効果があったのか伺います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 波及効果ということでございまして、当初は牛肉まつりを町場でやるということで白老町内のいろんな事業者だとか皆さんもこの牛肉まつりに乗っかっていただきまして、おのおのの立場で町の活性化につなげていただきたいとは思っていたのですけれども、今回あそこで初めてやったものですから、皆さんどこまで関わっていいのか、どこまでできるかというところでまず半信半疑な部分もありまして、なかなか今回の開催に当たってはそれに付随する、連携する事業が展開されたとは言えないと思っております。ただ、しかし今回 1 回目をやったことによってある程度の物差しというものは示せたかと思うのです。このぐらい、牛肉まつりがここでやることによってどれだけの人が来てにぎわいが出るか、この辺を示せたと思っておりますので、今回はあっちにもこっちにも経済波及効果が出たと言ひ

切れませんけれども、来年度以降、またはあそこを活用してほかのイベントをやるときもある程度その辺は、そしたらこういう部分で絡んでいけるということは、きっかけづくりはできたと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） あと、場所がポロトミンタラのところになって、ウポポイと目と鼻の先という会場の効果として、多分皆さんが一番気になっているウポポイとの相乗効果はどうだったのか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） ウポポイとの相乗効果ということでございまして、今回ウポポイとの連携ということも当然テーマに掲げて動かさせていただきまして、ウポポイも白老牛肉まつりといろいろと連携を図っていただきまして、ツアーのバスはウポポイのロータリーを使わせていただいたりとか、皆さんご存じのとおり駐車場を開放していただきまして活用させていただいたということでは連携は大いに図れたかと思っております。ただ、やはり牛肉を食べてから、お酒も入るでしょうし、それから博物館に行くかというところになると、来場者の声もなかなかこのにおいがついた中で行けないよねとか、そういうところがあって、ウポポイに来た人がお祭りに来た、お祭りに来た人がウポポイに行ったという、その交流はそう多くはなかったと思っております。ただ、来場者の方の声が、私のところにも届いている声を聞きますと、ウポポイってここにある、こういう施設なのだということを皆さんやはり初めて見られた方が多くおりまして、今度ゆっくり白老町にウポポイを見に来たいというような声があったものですから、それらを考えると今後また白老町に来ていただいてウポポイを見ていただけるというきっかけづくりにはなったと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） ぜひとも担当課としてもウポポイと意見交換しながら、また来年に向けた活動をしていただきたいと思います。

続いて②です。今回各地、各駐車場、各道路にたくさんの警備員の方がついてたと見受けられました。その人たちのおかげかどうかはまた別として、駐車場問題、また路上駐車等々、交通整理がすごくスムーズで渋滞もなかったように感じました。あの規模のイベントにしては大変素晴らしいことだったと思っておりますが、今後またこれ以上の人が増えるだとか、今回結構駐車場も空いていたので、もっと車で来る人が増えるだとかというときに、やはり今回以上に渋滞等の問題が出るのかなと感じます。そこで、公共交通である地域交通バス、これとの連携は今後どのように考えていくかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 太田政策推進課長。

○政策推進課長（太田 誠君） 今も経済振興課でやっているぐるぽんが市街地循環ということでウポポイを起点に30分置きに運行しておりますので、今回担当課長からも答弁があったとおり、ある程度来場者がどのような交通手段で来るかというのは参考になりましたので、

そこの部分も農林水産課、経済振興課と連携を図りながら、バスの利用促進も含めて考えていきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 今回駐車場間の連携バスが多分出ていなかったように思うのですが、これは最初からそういう考えの下でやっているとは思いますが、地域交通のバスのダイヤ、大変厳しいというか、様々な条件で難しいとは聞いていますけれども、いろんな事業、牛肉まつりも当然そうなのだと思いますが、地域のこういう事業に対してやはり公共バスが出て、その遠くの場所から会場まで行くということがやっぱり地域の人たちの助けにもなると思うのですが、それについてはどう思いますか。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 祭りと公共交通の関係のお話でございます。まず、町外からいらっしゃる方々、今回初めてポロトミンタラでアンケートを実行委員会で行ったのですが、JRの白老駅から降りてすぐの会場ですごく利便性がよかったということで、そして車でお越しになった方々もこんなに駅に近いのだったら来年はJRを使って来たいとかというようなご意見もいただきました。ですから、一定限町外から来る方々についてはまず公共交通機関を使って歩いて会場に行ってくださいということかなと。さらに、公共交通を使ったということであれば、せっかく牛肉まつりにお越しただいて白老町にお越しただいたのであれば、ぐるぽんりを使ってまちを周遊していただく、こういうことに利用できないかということですか、あとは町民の皆さんのことを考えると、私のほうにもお酒を飲むという関係もあって、元気号を使ってその会場に向かわれるというようなことのお話も私のところに直接聞きました。公共交通を利用して会場に行きましたという声も聞きましたので、今回初めて牛肉まつりという町でいう大きなお祭りを市街地で開催をさせていただいて、それで様々な公共交通の活用というか、そういったことも一つ視野に入れた中で公共交通については取り組んでいきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） まだまだ問題、課題、たくさんあると思いますけれども、白老町にこれだけの集客ができたことは、今までもそうだったのですが、今回またまざまざと確認できたことだと思います。次回からイベントを育てるという意味でもいろいろな、観光協会、商工会等の今まで実行委員会に入っていた面々が、今回は白老牛銘柄推進協議会青年部が中心となってやっていると思いますけれども、いろいろな協力体制が必要ではないかと思いますが、それについてはどう思いますか。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 私も8年ぶりに担当させていただきましたけれども、これまでの牛肉まつりは農家の方々を中心に商工会青年部、観光協会、白老JC、いろんな方が入っていただいて組織して牛肉まつりを開催させていただきました。実際そういう形態にあります組

織をつくってやっていたけれども、皆さんが集まって実際おのおのの立ち位置で牛肉まつり実行委員会として役割を果たすというのはなかなか難しかったのかなと思っております。今回5年ぶりということで、私も戻ってきたときに白老牛銘柄推進協議会の青年部が人も増えて、顔も新しい方々、生産者も増えてきたとか、人数も実は増えてきていると。今回から自らやろうと、自分たちの力で牛肉まつりを成し遂げようということの思いと、あとは観光協会とか商工会とかの皆さん方にはおのおのの立ち位置でこの牛肉まつりと一緒に連携していただければという思いから、今回白老牛銘柄推進協議会青年部を中心に実行委員会をつくっております。そういう考えの中で進めておりますので、決して排除したわけではなく、これからも皆さんおのおのの立場で、立ち位置で、この牛肉まつりというものを皆さんと連携しながら進めていきたいという気持ちは当初からも今も変わらず持っておりますので、その辺はまた連携を取りながら、来年度以降またよりよいお祭りにしていきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは次、③番、開催前にたくさんの牛肉まつり待望論があったと思っています。実際に開催し、約84%の方が大満足との回答をいただいておりますけれども、残りの約15%、これをさらに上げるためには何が必要か伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） 今回のお祭りの開催に当たりましてグーグルホームを活用し、アンケートを取らせていただきました。278名の方にアンケートの回答をいただきまして、かなりの参考になる、お褒めの言葉もありましたけれども、ここをこうしてほしいとか、いろんな声をいただいておりますので、この声を実行委員会内部にとどめず、やはりいろんなところに広めていって、こういう声があるので、次回以降観光協会にお願いできないでしょうかとか、自分たちでできるものは自分たちで改善していくとか、そういうことをやっていきたいと思っておりますので、この生の声を生かしながらやっていきたいと思っております。中には、今回久しぶりにやったものですから、一番多かったのが初日のコンロの火力が弱くて肉が焼けないという声がアンケートをずっと見ていくとかなり多かったです。こういう声も、やはり寒い中で肉が焼けず、なかなか食べられなかったという生の声をいただきましたので、これは炭を乗せるときに台に乗せないとか駄目だったのですけれども、ここをそのまま焼き台に入れてしまっただけの差があつて焼けなかったというところで、こういう一つ一つ貴重なお声をいただいておりますので、改善しながらやっていきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） では次、④の地域おこし協力隊について質問いたします。

今年度の重点事業というか、にも載っていた農畜産業稼ぐ力向上支援事業、農地の地域おこし協力隊でありますけれども、事業費約440万円プラスいただいてやっていることですが、町長答弁の中で札幌市からシェフを招くとか、なかなか見えない、どちらかというと見えない活動なので、できればこれもせつかくの事業ですから、もっと町民に見える形というか、

したほうがいいと思うのですけれども、やっていることは素晴らしいと思うのですけれども、町民の見える化というか、これにはちょっとどうなのかなという部分があるのですけれども、こちらについても伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 菊池農林水産課長。

○農林水産課長（菊池拓二君） このたび今年度の新規事業として地域おこし協力隊の方1名にお越しいただきまして活動していただいております。この地域おこし協力隊については農林水産課ということで、1次産業従事者の所得向上を図るのだということを掲げて地域おこし協力隊の方にお越しいただいております。簡単に言いますと、生産者の方々が自ら肉を売っていきこうと、売って所得を上げていきこう、それを農家経営の安定化につなげていきこうという思いで今回地域おこし協力隊の方に活動していただいておりますので、一町民の方にどのような活動をしているか見ていただく、知っていただくのは、なかなかそういう機会がないと思っておりますので、その点は定期的に行われる地域おこし協力隊の発表会だとか、そういうところでどのような活動をしていたかというところを知っていただく機会の中で発表していきたいと思っております。

また、今回の牛肉まつりの関わり方につきましては、シェフの方を呼んで云々ってありましたけれども、農家とも話をしているのですが、牛肉まつりでこの2日間で肉を何頭売ったぞ、それで終わるのではなくて、そこが出発点としてどうこの白老牛を1年間、次の牛肉まつりまでいろいろな販売をしていくかというところが一番重要だよという話になっています。ということで、今回シェフをお呼びして白老牛肉まつりの底力みたいな、こんなに人が来てくれるのだよというところをシェフの方々にまず直接見ていただいたというのが1つの目的です。もう一つは、やっぱり牛肉というと高級なものですから、なかなか若い方はそう簡単に食べられないというところで、やっぱり若年層の層を広げていくということが和牛肉の消費拡大につながっていきますので、この辺を手軽に、白老牛を使った加工品だとか、簡単にというかりーズナブルに食べられる商品開発ということで今回お呼びしました。その成果を踏まえまして、今回6月から札幌市でビアガーデンが開催されておりますけれども、その2会場で白老産の和牛を活用して3か月間販売することにつながったということで、生産者のところから直接自ら肉を販売することにつながったということになっておりますので、こういうところで地域おこし協力隊の方がその方の持っているネットワークで広げていっておりますので、この辺は成果とか課題とかも含めて発表会で皆さんに知っていただくような機会をつくっていききたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） では、この質問の最後にさせていただきます。

今回町制施行や和牛導入70周年という冠の下、200万円という大きな助成がついたと考えております。助成金の費用対効果を考えても大変多くの相乗効果を産んだものだったと考えます。ポロトミンタラとか近隣の商業施設も私が聞いている中では歴代最高の売上げがあったというところも多々聞こえております。町長の言う魅力と活力にあふれ、にぎわいが生まれる産業の

まちというのにも合致していると思っております。祭りの効果が地域経済に分かりやすく波及していくことは行政としても願ったりのことだと思います。それを踏まえて、次回もしっかりとした行政としての補助及び助成をどのように考えているのか町長にお伺いしたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 牛肉まつりについてのご質問でございました。まずは牛肉まつり復活ということで2024牛肉まつりということで、白老牛銘柄推進協議会の皆様をはじめとして本当に関係者の皆さんのお力によってこの祭り、一言で言えば大成功だったのではないかと私は捉えております。この祭りの当初、スタートする前は場所、会場を変えてということで、やはり一番地域の住民の方々にご迷惑がかからないようにということで細心の注意を払って祭りを始めようということでスタートしたのですが、議員からもお話があったように大きな渋滞ですとか、路上駐車ですとか、細かい部分はあったにせよ、大きなトラブルはなく終了したということは本当に重ねてよかったと思っております。

それで、先ほど来からお話をしていますとおり、アンケートを今回実行委員会で取っていた中で1つ印象的だったのは、お祭りに来ていただいた方で初めて白老牛肉まつりに来たという方が半分いらっしゃいました。これは、やはり白老牛のPRという意味では本当に有意義だったお祭りだったと思っております。さらに、ウポポイとの連携ということで議員からご指摘もありました。実は、これはアンケートの生の声としてお話をしますけれども、ウポポイの割引券をつけるなりしてもうちょっと付加価値をつけてほしいというようなお話がありました。ですから、こういったこと、担当課長からもお話があったように今回初めてということで、ご来場された方は初めてウポポイを見て、あれは何だというようなことを私も実際聞かれたりしたのですが、そういったことでウポポイとの連携ということで、この辺についてもしっかりまちとして取組を進めていきたいと考えております。

最終的に行政の支援というようなことでお話でございました。もちろん経費的な部分ももちろんなのなのですが、今回行政として、議員からご指摘のあった警備体制、これも職員が一生懸命警備に当たったりですとか、駐車場の誘導をしたりですとか、もちろん行政としての下支えということで、これは畜産農家の主導的なお祭りではあるのですが、やはり位置づけとしては町の大きなお祭りというようなことでのお祭りですので、その辺は行政としてもしっかりと下支えをする、そしてまだ実際に決算ということでは出ていないのですが、議員がご指摘のとおり、やはり町のにぎやかしというような状況の中では町を代表するお祭りというのは間違いありませんので、しっかりと来年度以降もこの支援については町としてさせていただきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、次に移りたいと思います。

2. まちの景観や安全安心で住みよい生活環境について。

(1)、大町商店街の歩道が凸凹で高齢者が歩きづらい、児童が乗る車輪の小さな自転車等の走行がしづらい、旅行者のキャリーケースが運びづらいなど通行上の支障が多々見受けられる

が、補修や修繕をどのように考えているか。

(2)、歩道の街路樹が成長し、自動車や自転車等の視界の妨げとなっている。交差点歩道脇の民地においても背の高い草木が同様に視界の妨げとなっているが、その対応策は。

(3)、アスファルト歩道の亀裂や隆起、陥没等、ウォーキングやランニング時でも大変危険な場所があるが、補修や修繕をどのように考えているか。

(4)、近年、熊や鹿など多くの野生動物が町なかまで出没しているが、町民の安全を確保するため、歩道脇の草木除去及び歩道隣接空き地所有者への指導を強化する考えは。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

〔町長 大塩英男君登壇〕

○町長（大塩英男君） 「町の景観や安全安心で住みよい生活環境」についてのご質問であります。

1 項目めの「大町商店街の歩道が凸凹で、通行上の支障が多々見受けられるが、補修や修繕をどのように考えているか」についてであります。

大町商店街の歩道につきましては、昭和62年から平成2年にかけて、屋根のない博物館モールのデザインとして平板ブロック舗装を行っていましたが、整備から30年以上が経過し、各所で不陸や損傷が発生しており、デザインに大きな支障とならないよう損傷状況に応じた部分補修に努めております。

こうした平板ブロックの補修箇所は後を絶たないことから、根本的な改善に向けては、全面的な舗装改良による改修が必要になると考えております。

2 項目めの「歩道の街路樹や、交差点歩道脇の民地における背の高い草木の対応策」と、3 項目めの「アスファルト歩道の亀裂や隆起、陥没等の補修や修繕をどのように考えているか」については関連がありますので、一括してお答えいたします。

街路樹の管理や歩道のアスファルト損傷等につきましては、定期的な道路パトロールによる点検を行い、障害となる街路樹の剪定や草刈りのほか舗装補修を実施するなど、町道の維持管理に努めております。

また、交差点周辺部の民地草木の成長に伴い、視認性の低下による交通障害が懸念される場合には、土地所有者への連絡を図り処理を進めるなど、交通安全対策に努めております。

4 項目めの「歩道脇の草木除去及び歩道隣接空き地所有者への指導の強化」についてであります。

空き地所有者への指導につきましては、白老町空き地の雑草除去に関する指導要綱に基づき、例年、町内会に地図を配付し、雑草が繁茂している空き地の情報提供をいただき、土地所有者に対する連絡・指導に努めております。

今後も、住みよい生活環境の維持を図るため、適切な土地管理の指導による取組を進めてまいります。

○議長（小西秀延君） 6 番、前田弘幹議員。

〔6 番 前田弘幹君登壇〕

○6 番（前田弘幹君） まちの景観や安全を重視した環境整備についてですけれども、町財政

の面からも、補修等優先順位の面からも、様々な理由があるのは理解しますが、町民の安全をはじめ観光客や防災の観点からも早急な対策が必要と思い、質問をいたします。

まず、1番です。①、大町商店街の歩道ということで、この商店街のことも考慮し、ここだけではないのですけれども、白老商業振興会という組織がありまして、その人たちと何かしらこの歩道についての協議をしたことがあるのか伺います。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） ただいまの中央通りの部分の協議については、今のところ建設課としては対応した実績はございません。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 防災の観点からも高齢者がスムーズに歩ける歩道は避難路と考えても必要な整備だと考えますけれども、その見解はどうでしょうか。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 確かに平板ブロックがちょっと凹凸が出ておりまして、通行に支障が出るという観点からすれば防災の観点から見てももう少し補修に努めていく必要があるのではないかと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 町長の答弁でも屋根のない博物館モールということで、根本的な改善には全面的な舗装改良による改修が必要ではないかということでありますけれども、この歩道を直すとすればどのくらいの工事費がかかるか試算はしたことはございますか。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 中央通りのブロック舗装の部分の改修費用になります。我々のほうで概算で出しておりますけれども、延長が約600メートルございまして、歩道が片側で6.5メートル、両側で約13メートルの歩道となっておりまして、全体的な面積でいきますと約8,000平米程度でございます。平板ブロックの部分ですとか、あとその附属する縁石ですとかマンホールの部分の高さ調整、こういった部分も必要になってくると考えておりまして、黒舗装に替えた場合で、大体な概算ですけれども、1億円程度、平板ブロックからまた平板ブロックに改修するとなると2倍から3倍程度さらに必要になるのではないかと試算はしているところでございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 平成の初めの頃、この商店街をつくる時に商店街も含めてたくさんの補助金を使ったと記憶しておりますけれども、この歩道をやるにも何か補助金がついたのか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 当時の昭和62年からの事業のときは都市計画の街路事業として事

業化をした上で整備をしております。今後の改修等については、国の補助金は今のところはないような状況となっております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 今は補助金がないということですがけれども、先ほども言いましたように例えば振興会と協議しながら、全部ということではないですがけれども、例えば町が何%、商店街が何%みたいなやり方はできないのかお伺いしたいと思います。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 議員のお話のありましたように、一部費用負担によって整備をするというような事業手法は考えられなくはないと思いますので、今後はそういった機会がありましたら大町振興会とは協議をしていきたいとは考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） では次に、2番目に行きたいと思います。

街路樹が大きくなって、それが道道なのか町道なのかは分かりませんが、その街路樹の上にカラスの巣が作られていてすごく危ないのではないかと聞いたことがあるのですが、そういう問合せは何か来ていますか。

○議長（小西秀延君） 工藤生活環境課長。

○生活環境課長（工藤智寿君） カラスの苦情ということで私から答弁させていただきます。

道路に限らず、高い樹木にカラスの巣ができていくということで町民の皆様から問合せ等いただいている状況はあります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） そうなったときに、その対応策はどのようになっていますか。

○議長（小西秀延君） 工藤生活環境課長。

○生活環境課長（工藤智寿君） 町で卵の段階ですとか、それからひなの段階では巣の除去も含めて実施しています。また、消防のご協力もいただきまして、高いところについては放水していただくというような対応もさせていただいているところでございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 続いて、イタドリなどすごく繁殖力が強くて、また茎が硬くてという植物も相当数見受けられますけれども、その場合普通の草刈り機では結構除草がしづらいというような草木も多々見受けられますが、そういう場合草刈り機ではなくて除草剤等の散布ということはやっているのかお伺いしたいと思います。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 町道の草刈りの部分に関してになりますけれども、除草剤の散布等については行っておりません。ただ、道路の状況によってどうしてもイタドリが生い茂って

草刈り機だけでは対応できない場合については、町のグレーダーも活用しながらイタドリを倒して雑草除去には努めているというような状況にあります。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それと、同じく段々気温が高くなってきて、歩道に黒い毛虫が結構多く出ているのです。その場合もやっぱり除草剤なのか、防虫剤をまかないと多分これから1か月後とか大変な被害が出るように思うのですけれども、そういった対応はしているかお伺いします。

○議長（小西秀延君） 工藤生活環境課長。

○生活環境課長（工藤智寿君） ドクガの毛虫といいますか、幼虫が今実は大量発生しているときでございます。定かではないのですが、七、八年の周期で大量発生するということで、前回は平成27年、28年頃に町内で大量にドクガの幼虫が発生、毛虫が発生して、まさに今年がちょうど今発生している状況でございます。除草剤ではなくて殺虫剤といいますか、防虫剤といいますか、そういったようなものを使って今担当を含めてうちの課でかなり毎日のように出て、噴霧器を使って対応させていただいているという状況でございます。また、建設課においてはご協力の下、道路の付近も建設課のほうと併せながら、噴霧器をこちらからお貸しをして対応させていただいているというような状況でございます。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 続いて、3番に行きたいと思いますが、国道や道道など白老町管理外の同様の件については、白老町から国や北海道に対して今こういうことになっていますという報告をしているのか伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 瀬賀建設課長。

○建設課長（瀬賀重史君） 道路の維持管理の観点の部分でいきますと、町民の方から道路の管理者が分からなくて、国道、道道、町道の管理区域が分からなくて町に道路が陥没していますですとか、そういった情報提供はあります。そういった中で、建設課では町道区域の部分であれば我々で速やかな対応を行っておりますし、それが道道ですとか国道の区域内であれば我々からそれぞれの管理者に連絡をしまして、速やかな対応には努めているような状況となっております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 歩道の利用者にとっては国道や道道でも白老町を走っている道路であれば白老町の道路なのだと認識しているところだと思います。何かあったときに白老町、責任はどうしてくれるのだと多分言われることではないかと思います。実際の責任の所在は別としても、ぜひ町の職員の皆様にも、月に数回のパトロールという話は答えていただいていますけれども、通勤、退勤のときも含めて歩いているときにながら確認をしながら、ぜひ道路の草木等のチェックをしていただきたいと思いますけれども、見解はどうでしょうか。

○議長（小西秀延君） 大黒副町長。

○副町長（大黒克己君） 道路、あるいは道路の交差点等での雑草だったり、あるいは道路のいわゆる陥没等でやはり事故につながるというようなこともありますし、もちろん交差点での草木が生い茂っているようなところでは、通学路であれば特に子供たちの安全ということも非常に心配なところでございますので、この辺につきましては職員に対しても何か気がついたときには速やかに連絡をして即座に対処できるような体制は取っていきたいと考えております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは次、（4）番に行きたいと思います。

近年熊や鹿等多くの野生動物が町なかまで出没しているということを考えても、道路脇の高い草木、これは非常に動物が隠れる部分にも適していると思います。また、歩道脇の草木の増殖は、ごみのポイ捨てにもつながると考えます。定期的な処理はしているのでしょうけれども、なかなかこの時期になると成長が速くて追いつかない部分もあると思いますが、草刈りが不法投棄の予防にもつながると考えますけれども、見解はどうでしょうか。

○議長（小西秀延君） 工藤生活環境課長。

○生活環境課長（工藤智寿君） 先ほど町長の答弁にもありましたとおり、町においては歩道脇とかに限らず、空き地の不良箇所の状態を解消するため有効活用を図って、もって良好な生活環境を保持していくということを目的に白老町空き地の雑草等除去に関する指導要綱というのをもって対応しているところでございます。実際には、町長の答弁にもありましたとおり、町内会へ地図をお渡しをして印をつけていただいて、それを返してもらいまして町で指導してというようなことをさせていただいております。来た結果を基に指導も年1回だけではなくて2回指導させていただいております。雑草の除去率といいますか、その結果として91%程度こちらではそれに応じていただいて、きちんと管理されているという状況で押さえておりますが、ただ残念なことに全てのところがそういう管理をきちんとやっていたという結果にはなっていませんが、約9割以上の方が対応していただいているというようなことで、これからも続けていきたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） 町内会の話ですけれども、なかなか雑草が生えている地域って町内会地域だけでも、人が住んでいない地域というのが相当あると思いますので、ぜひその辺も考慮していただきたいと思います。

白老町は自然豊か、山も川も海も自然の幸にあふれています。それが魅力的で多くの観光客も来る町だからこそ、それらの安全は担保してもらいたいと思います。住民が住みよいまちは観光客も来やすいまち、そこで理事者にお聞きします。雑草も自然なので、人と自然が共生した安心して住みよい生活環境とは何でしょうか、見解を伺いたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 今回は町の景観や安全、安心して住みよい生活環境についてということ

でご質問をいただきました。議員ご指摘のとおり、本町の特色である自然豊かなまちということの中で、この自然をしっかりと守った中で後世に引き継いでいくというのが私たちの役割かと思っております。道路の関係ですとか、あと草刈りの関係ですとかということでご質問いただいて、やはりこれって町民の皆さんの生活に密接に関わってくる事柄ということですので、これはこれまで以上というか、これまでどおりしっかりとパトロール等々を含めて町民の皆さんが町民生活が送れるようにしっかりと行政としても下支えをしていきたいと考えております。

人と自然の共生というような状況の中で、今様々に地球温暖化ですとかゼロカーボンですとかというようなことが世界で叫ばれている状況の中で、やはり私たちが生きていく上でこれまでの社会を振り返ったときに自然を壊してしまっている状況というのが、便利な世の中になるがゆえにそういった状況というのはこれまでであったのかなと思っております。ですから、便利な世の中になっていくためにはというようなことも必要なことではあるのですが、やはり先ほども申したとおり白老町のこの豊かな自然をしっかりと守っていくということで行政としても、これは本町の特色でありますので、ここはしっかりと、これはなかなか行政だけで解決できる問題ではありませんので、町民の皆さん、そして団体の皆さん、企業の皆さんと一緒に取り組んでまいりたいと思っております。

○議長（小西秀延君） 6番、前田弘幹議員。

〔6番 前田弘幹君登壇〕

○6番（前田弘幹君） それでは、最後になりますけれども、先ほどの商店街の話に少し戻ってしまいますけれども、この商店街、駅から役所、またウポポイから役所ということで、このまちの本当に顔になるメインストリートです。子供たちの笑い声が響く場所が商店街であれば、まちの活気にもつながることだと思います。観光客にも安心した回遊を誘発すると思われます。決してけがをする等、子供たちが泣き叫ぶということでは駄目だと思います。この街区含めてこの先も住み続けたいと思えるまちづくりというものを町長にお聞きして終わりたいと思います。

○議長（小西秀延君） 大塩町長。

○町長（大塩英男君） 商店街の道路整備、インフラ整備の関係でございます。やはりまちづくりの一つの大きな観点としてはインフラ整備というのが町民の皆さんからも要望の声が高いというのは私も認識しているところでございます。今回は商店街の平板ブロックというような状況でのご質問だったと思います。やはり白老町はウポポイを中心として町外からもたくさんのお客さんが今白老町を訪れていただいている状況の中で、やはり歩いて凸凹だったら印象が悪いですから、イメージが悪いというような状況もありますし、もちろん町民の皆さん、子供をはじめ歩いていてけがをされるというような状況はあってはならないと私もしっかりと認識をしております。ですから、もちろん担当課からお答えをしたように、しっかりとパトロールをした中で整備をしていくというような状況の中と、あとはちょっと私が見受けられるのは、散見して例えば歩道上に車が乗り上がっているですとか、そういった注意喚起、整備をしっかりとしていくためにもそういった注意喚起というのにも必要なかなと捉えておりますので、そ

こは両方の面でしっかりと整備に取り組んでまいりたいと思います。

○議長（小西秀延君） 以上で6番、前田弘幹議員の一般質問を終了いたします。